神奈川大学　差額連携事業「本の架け橋プロジェクト」御中

この度は子供たちのために物品を送っていただきありがとうございます。
私はガーナの首都アクラで、JICA ボランティア（日本語教育）として活動している柏木と申します。

私が派遣されている首都アクラは皆さまのイメージするアフリカの国とは少し違うかもしれません。
ビルが立ち並び、毎日起きる渋滞。自家用車を運転し、スマートフォンを使いこなすビジネスマン。休暇でヨーロッパへ行く人々がいる一方、道路わきには物乞いがおり、学校に通わず家庭のために働く子供がいるのも事実です。

ガーナでは情操教育にはあまり力をいれておらず、楽器や美術、スポーツに触れることが出来る生徒は少数です。私は日本語教育ということで派遣されましたが、日本語以前にやるべきことがあると考え日本語の授業の合間にゴミ問題について話したり、花を育てたり、子供達へのリコーダーや紙芝居の作成など情操教育にも力を入れました。

ある日、日本で開催されている絵画コンテストに学校の子供たちを参加させたいと伝えたところ、ガーナ人教師が選んだ数人の生徒が、同じような構図と色遣いの絵を持って来ました。その生徒たちは教師に材料費を払うことのできる生徒・教師のお気に入りの生徒です。たとえ筆記具があっても、書いた絵に点数をつけて評価するこの国では、誰かの絵を写すことしか知らない生徒が多いのです。色鉛筆を買えない子供は参加すらかないませんし、指導する教師も自分が受けたことのない科目を指導することは難しいのでしょう。
上手でなくていい。入賞なんてしなくていい。書きたい子全員が参加できるように。教師が指示した絵を丸写しにするだけではなく、書きたいと思える絵を自由に書ける、そんな環境を作りたいと思いました。

誰でも自由に入って過ごせるようにと、鍵をかけて締め切ってあった日本語部屋を開放し、日本語の本やおもちゃも自由に使用できるようにしました。相次ぐ盗難・破壊に初めはてんやわんやでしたが、数か月たつと子供達も落ち着き、使用したものを元に戻したり、子供同士しで注意し合って使用するようになりました。平仮名表と見比べて絵本を読んだり、毎日放課後に来て宿題をして帰ったり、初めはハートも書けなかった子が花を書いてくれるようになりました。

物を渡す行為はできるだけ避けたいと思いつつ、どうしてもある程度の品は必要になり、今回の要請を出しました。
ガーナでは手に入らない書籍類はもとより、クレヨンや単語カードをまとめるカードリングなど、たくさん送っていただき、本当に感謝いたします。ただ物品を与えて終わりではなく皆様のご寄付を有効に活用し、他の日本語教育や情操教育に関わっておられる方と共に継続的な活動を行っていきたいと思います。

追　記
皆様からの荷物が事務所に届いた数日後にコロナウイルスの状況悪化のため緊急帰国となり、ガーナを離れることになりました。送っていただいた物品はガーナ在住の方に託しましたが、外出規制があり、その方も子供達に会えない状況が続いています。よって現時点において、物品使用中の写真をお送りすることができないことをお詫びいたします。

JICA ボランティア
柏木　絢菜

ガーナについて

チョコレートの原料カカオ

木に生っているものを長い棒で取る。カカオの実は黄色っぽく、中の実は白い。その種を発酵させ乾燥させ焙煎し、皮をむいてすり潰したものがチョコレートになる。果肉は酸味があっておいしいが、チョコレートはものすごく苦い。ガーナ産のチョコはスーパーにも置いてあり、頭の上に載せて売っている人もよく見るが、チョコレートを食べているガーナ人を見たことがない。

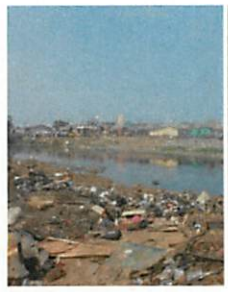
髪　型

ガーナ人の髪は癖が強く、女性でも多くが数センチ程度の長さで、地毛に長いつけ毛をつけている女性が多い。毛を付け替えたり、カツラを被ったりして様々な髪型を楽しんでいる。一度編み込んだら数週間洗わない。つけ毛をつけた日は頭が痛くて眠れない。
男性は短く剃っている人が大半だが、ドレッドヘアーの人もいる。

オーダーメイドの服

ガーナではカラフルな布が売られている。1ヤード10セディ～でワンピースを仕立てるのは4ヤードほど必要である。人々はお気に入りの生地をテーラーに持ち込み、仕立てた服でお洒落をして教会へ行く。採寸をしているはずなのにボタンが閉まらない、足が開かないなどの問題がよく起こる。2、3回のお直しは必須。写真は黒板柄。

ゴミ問題



ガーナはゴミだらけと言っても過言ではない。飲み終わった水の袋はその辺に捨て、割れた瓶を地面に埋める。ゴミををゴミ箱に捨てるという考えがない。学校に設置したゴミ箱は盗まれた。写真は数分で喉が痛くなる世界最大の電子廃棄物の不法投棄場所「アグボグブロシー」と通学路のゴミを拾う生徒。

世界遺産　ケープコースト城

大西洋奴隷貿易の拠点。奴隷船はここから出港し奴隷達は南北アメリカへ運ばれ売買されていた。城内には奴隷の収容所などがあり、見学が可能。海側から眺める事も出来る。2009年にはオバマ元アメリカ合衆国大統領一家が訪れている。

ガーナについて

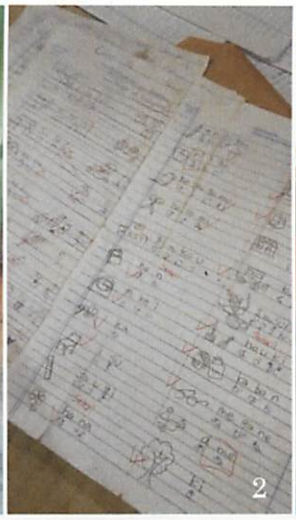
1年5か月をガーナで過ごした私個人の体験やガーナに対する印象などを記載いたします。

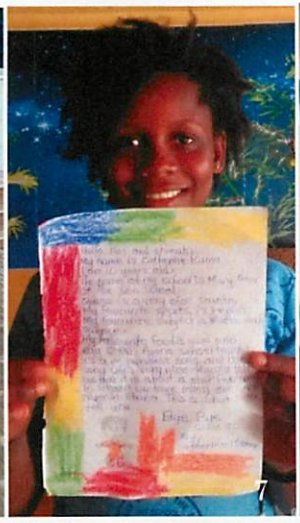
・私は首都に住んでいたが、よく停電する。一日に3回ほど停電する。ひどい時は6時間以上停電し、暗闇の中ヘッドライトを装着して200人分のテスト採点を行ったこともある。モバイルバッテリーは偉大だが、使い切ってしまうことがあるのでソーラー式充電器やライトの用意をお勧めする。
・断水もよくする。誰かが使用中、大家さんが水を止めた、タンクが空になった等理由は様々。
・ガーナはイギリスから独立したため公用語は英語だが、フランスから独立した国に挟まれているのでフランス語も必須科目に入っている。
・アジア人は全員中国人だと思っている節がある。
・英語だけで問題なく暮らせるが、現地語のチュイ語で話すと好印象を持ってもらえる。
・ガーナ人は自分達を正当なイギリス英語を話していると思っている。
・教育制度は日本と同じ小学校6年・中学校3年・高等学校3年・大学4年制で新学期は9月。
・家の事情などで14歳で小学4年生、20歳で中学生の人もいる。

・1セディ(約26円)で買えるもの＝瓶コーラ。パイナップル(小)。飴10個。ボーフルーツ(ドーナツのようなもの)。JICA事務所からドミトリー(隊員連絡所)までのトロトロ(乗り合いワゴン車)代。ゆで卵。
・付け髭をつけて男装したくなるぐらいにはアクラの客引きはひどい。
・ガーナ大学の野口記念医学研究所ではコロナウィルスに関わる研究も行なわれている。
・ガーナ大学の本屋にはロシア語、中国語、韓国語などの辞書があるが日本語のものはない。

・黒人以外の人種は総じて「オブロニ(白い人)」と呼ばれる。
・男の子も女の子も坊主頭なので、私服の子供はピアスをしているかどうかで見分ける。
・移動はトロトロ(乗り合いワゴン)かUber、タクシーという手段がある。タクシーもシェアできる。
・乾期は日焼け止めが5分で落ちるほど体中から汗が吹きだす。
・首都ですら排水がなく、お風呂や食器を洗った水をためて道の真ん中に撒きに行く。
・日本の蚊と違うのか、治りが遅く傷が残る。
・何でも頭に載せて売り歩く。ペットボトルから洗剤、枕、靴も載せる。猫背はいない。
・朝はみんな大体4時ごろに起きて活動を開始する。
・やたらと靴の汚れを気にする。
・食事は右手で食べる。家族揃って食べるという習慣はない。
・雨季になると道路が川になる。
・まな板を使わずに料理をする。
・フフやバンクーなど白くて丸まっている食べ物が多い。
・ガーナでダンスとサッカーが上手だとヒーローになれる。
・教会は祈りの場というより踊りの場。

ガーナから来たニフオフェ(ハンサム)君





活動一部抜粋

① 棚のペンキ塗り
② 平仮名の宿題
③ 習字の練習
④ 七夕飾り
⑤ 浴衣で記念撮影
⑥ 竹とんぼ
⑦ 日本への手紙
⑧ 毎日の日課
⑨ 初めてのヘアカット
⑩ けん玉に挑戦
⑪ 着せ替え遊び
⑫ 名札作り
⑬ 新聞紙で兜作り
⑭ お抹茶体験
⑮ リコーダー披露
⑯ ビデオ上映